



皆さん、明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。

先週の日曜日、今年最初の日曜日は1月3日で、この日は一般公開の集会はありませんでした。

午前中に東住吉のメンバー限定で礼拝を持ち、聖書研究の学び会をし、お昼からすぐにイルミネーションの後片付けをし、私も所用を片付けて、2時半過ぎに北田辺の方に向かって歩いて行ったんです。

そしたら、前から3人の親子連れが来られて、息子さんが（高校2年生だったんですが）じっと私の顔を見て「高原さん！」私思わず後ろを振り返った。「いつもYouTube見てます。明けましておめでとうございます。」私もお挨拶して、どこに行くのか聞いたら東住吉の集会に行くと。「今日、ないんですけど。」「えーっ！」この親子、まだクリスチャンじゃなくて静岡から。

「クリスチャンは何があっても、日曜日は集会に行くもんだと思ってましたけど、東住吉のクリスチャンの人たちは日曜日に集会ないんですか？」「いや、メンバー限定ではあったんですけど、一般公開はないんです。」「ないんですかー」と言ったら、後ろから別の人に来て「ないんですかー」って。

北田辺の駅前で1月3日の新年早々、大の大人が4人も5人も集まって、「ないんですか。」「ないんです。」不景気な話して。

後から来られた方は、午前中自分の教会に行って、色々質問したいことがあって来たというクリスチャンで、「集会はなかったけど、こうやって個人的に話をする機会があったから、これはこれで素晴らしい神様の祝福だと思います。」カッチョイイ～！よう言うてくれた。私も少し気持ちが救われた気がしました。というのは、コーヒーくらいごちそうしようかと思ったけど、どこもやってない。

北田辺の駅前やから。あれ、ホンマに駅前か？大阪市内の。ということで申し訳なかったんですが。

なぜこんな話を新年早々やっているかということ、大阪でも緊急事態宣言の発動が恐らく今週中にあるだろうということで、しばらく、この集会所での定期の集会は見合わせたいと思います。

出来るだけ早く再会したいのですが、それはホームページに掲載するので、必ずホームページをよく確認していらしてください。毎回駅前で遭遇するとは保証出来ませんので。その点を是非お願いします。

今日は「混迷時代、正気を保って生きる」というテーマ。なぜ混迷かということ、アメリカ大統領選挙なんですけど、これについては明日の7時に『ごうちゃんねる』をアップしますので、ひとつよろしくお願いします。これから大変なことになりますよ、ほんまに。ずーっと民主党が優勢になるような、アメリカのシステムの中身を変えるようなアクションに行くかもしれません。というのは、ホワイトハウス上院下院トリブルブルー。全部青色/民主党。阻むものがない。そしたらどうなりますか？

『ごうちゃんねる』、ひとつよろしくお願いします。

そういうことだけじゃなく、私たちの人生においても、本当に先が見えない混迷時代にあって、平安に・勇敢に生きて行くための秘訣をイエス・キリストが述べておられるんです。

その箇所をご一緒に考えたいと思います。ヨハネの福音書 14 章。

ヨハネ 14:1 あなたがたは心を騒がせてはなりません。神を信じ、またわたしを信じなさい。

これは、キリストが十字架に掛かる前日の夜のキリストの言葉です。

弟子たちは最後の晩餐の席で聞いています。その席で、イエス・キリストは2つの爆弾宣言をなさいました。

①「12人の弟子の中に裏切者が1人いる。」

今まで3年間、寝食を共にして来た運命共同体・家族のような12弟子。「その中に、わたしを裏切る者がいる」とキリスト自らが言われたんです。それだけでも十分にショッキングなのに、

②「わたしは人が付いて来ることが出来ない受難の世界に入っていく。誰も付いて来ることが出来ない。」その時、聞いていたペテロが「イエス様。私はあなたのためなら、命を捨てる覚悟が来ています。」言い切る。本気で。すると「わたしのためには命も捨てると言うのか。ペテロ、あなたは今日、鶏が鳴く前に3度、わたしを知らないと言うから。」

こんな言葉を聞いて平静でいられる人は誰もいない。だから心騒いだんです。

私たちはその現場にはいない。でも、生きていたら心騒がせる事がたくさんあると思うんですね。

パニックのような状態・恐怖心に支配されている状態・心配事で胸が塞がれている状態。

これは人間を委縮させて、普段ならあたり前に出来ることも出来なくさせてしまう状態。

これが心騒いでいる状態だと思うんです。

今日この講壇に立つために真ん中の通路を歩いて来ました。今は3密を避けるために、椅子と椅子の間、ちょっとずつ空間を空けている。これ、ホンマに3密避けてるんかなと。

1.5mにはどうしても見えないけど、そこそこ避けている。だから通路が狭くなっている。

私が歩ける幅は大体50センチで、その幅をスーッと歩いて前に来ました。

50センチの板を床に置いて、その上を歩くのは誰にも出来ます。でも、50センチの板を高さ20mのビルとビルの上に架け橋のように掛けて、その上を歩くことが出来るでしょうか？これは二の足を踏むんじゃないですか？幅は変わらないのに高さが変わるだけで、なぜ出来なくなるのか？

恐れがあるからです。万が一足滑らしたり踏み外したりして、20m落下してアスファルトに激突したらどうなるか？打ち所が悪かったら即死。そうでなくても、生涯治らない後遺症を負うような大怪我をするかもしれない。リスクが大きすぎる。そんな恐れがあると、落ち着いているときには当たり前出来ることも出来なくなります。

もし恐れに支配されていたり、心配事で心の中がガッチガチに委縮してたら、人生を生きて行くとき、本当だったら間違わないことを間違ったり・やらないことをやらかしたり・行かない所に行ったり・言わないことを言ったりして、自らの人生を傷つけることになりかねないですね。

では、恐れから解放されるためにどうしたらいいんでしょうか？ある人は「根性を鍛える」って。根性って…。そういうことが出来る方はそれをなさってください。僕には無理や。

皆さん、インフルエンザの注射打ちましたか？私は色々な所に行くということがあるので毎年打つのですが、上手な先生にやってもらうけど、やっぱり打たれるとき息止める。

しかも打つ前に「痛いよ」って言わはる。なんで言うかな。「わっ！どれほど痛いかな?!」

私みたいに想像力豊かなね。腕千切られるほどの痛さかと。それくらいに思ったら痛さがマシになるというのかもしれないけど。そんなんで根性ないので、私は鍛えて恐怖心を克服するのは出来ないと思います。

でも、もし高さ 20mの所に幅 20 センチの板を掛けても出来るとするなら、それは安全ネットを下に張っているときです。万が一転落しても、トランポリンみたいにポヨ～ンポヨ～ン上下するだけで、一切大怪我をしない・一切損害を被ることがない・死ぬことはない・絶対大丈夫というセーフティーネットがあるなら、冒険もやってみようという気持ちになるんじゃないですか。

しかし、セーフティーネット無しで「とにかくやれ！」と言っても、出来る人はいいかもしれないけど、出来ない人の方が多いと思います。

私たちは人生の中で、色んなしくじりがあると思うんですね。

“しくじり”の語源を、この間あるYouTubeで説明しました。

“為”（なす・行動する）は“し”と読むそうです。それが崩れる。“為崩れる/しくずれる”が、音韻変化で“しくじる”になったそうです。

つまり、しくじるとは何かをやり損ねること。選択においては選択を間違えること。何か致命的な失敗をやらすこと。

生きていたらいっぱいしくじりをやります。だけど、どんな失敗があったとしても、命だけは絶対に助かるし、色々間違いを犯すかもしれないけど、神様が下からいつも支えてくださっている。

そして致命的な、つまり自分の命を失うということだけは絶対に免れる。絶対安全の大丈夫を神が保証してくださる。もしそんな契約があるのなら、私は欲しいと思いましたね。

さて、この地上では色々心騒がせることが多いのですが、キリストは仰いました。

「わたしは十字架に掛かりに行こうとしているけれども、**神を信じ、またわたしを信じなさい。**」

なぜ恐れなくてもいいのか？なぜ心騒がせなくてもいいのか？

その理由が **14章1節から3節**の中に3つ書いてあるんです。今日は、その3つのポイントを皆様にご紹介したいと思います。

### なぜ心騒がせなくていいのか？

1. キリストが私の罪を償ってくださったから。

**ヨハネ 14:1 神を信じ、またわたしを信じなさい。** この神は私たちの作者である神です。

人間が手で作った神々ではなく人間を造った方。あなたの作者。全宇宙の第一原因者を聖書は創造主/神と呼んでいます。人が作った物じゃありません。人が作った物は人を助けることは出来ません。

私たちのルーツは全天全地を造られた真の創造主なる方だ、と聖書は語っています。

昔見た映画で『落ちこぼれの天使たち』、ムチャクチャいい映画ですよ。今、一生懸命探しているけど、どこにも無い。実話を基にしたアメリカの映画です。

カリフォルニアの南の方に、メキシコからの移民・ヒスパニックの人たちが住んでいるスラム街があるんです。親も経済力がなくてギリギリの生活をしているので、子供に教育を与えるチャンスより、「そんなんやめとけ。それより親の仕事手伝ってくれ。」

教育に対する理解がないスラムみたいな所にあるガーフィールド高校に、新任の数学教師が赴任します。足し算・掛け算も殆ど出来ないような生徒たちに、半年で微分積分をマスターさせて、クラス 18 人ですが、最終的に 18 人全員が認定試験に合格して、時のレーガン大統領とブッシュ大統領からホワイトハウスに呼ばれて表彰されるという、伝説の教師の物語の映画です。レーガン・ブッシュからというのは、彼が赴任している間ずっと、カリフォルニア南部のスラム街のその高校が最高の成績を上げたんです。

勉強がついて行けないのは数学なんですよ。この中で、数学と聞いたら胸ときめくという方おられますか？ときめく人は手を挙げてください。1人だけ？あなたは頭掻いてるだけ？紛らわしいんだよね。数学で胸がときめく方1人。ということは、あとの方は何なんですか？嫌な思い出しかないわと。

エスカランテという教師が赴任して、初めて教室に入ったら学級崩壊している。高校なのに学級崩壊。椅子に座っている人は数人。他はみんな立ち歩いて、教室出て行ったかと思ったら他の人を連れ込んで来るし、私語がうるさくて、もうムチャクチャな状態。どうにもこうにも取りつく島がない。そして、平気で遅刻。2時間目・3時間目遅刻。何時まで寝てんねんと。「君、遅刻届は？」生徒がポケットから「ほらよ。」遅刻届を見せて、教師の目の前でパッと離すんです。「見たかったら拾えよ。」腹立つわ！生意気な生徒ばかり。

それに、すぐ暴力事件・乱闘事件。特に、札付きのエンジェルという名前（全然エンジェルじゃない。地獄のエンジェルみたい）のヤツが、自分の友達がケンカしていたら「俺がやったるわー！」それをエスカランテが羽交い絞めにして止める。「暴力はいけない！」とか言って。

散々な初日が終わって、「ああ疲れた。今日は早目に帰って、シャワー浴びて休もう。」車に乗ろうとしたら、生徒が部品を盗んでいて動かない。歩いて帰る。これからどうなんねんと。そういうのがずっと続く中で、エンジェルが自分の子分みたいな他のクラスの子を引き連れて来ました。「あれ、みんな聴講生？数学の授業聞きたいの？」「バカ言うな。俺の客人だよ。」もうどうにもならない。ところがある時、ちょっとした出来事で、生徒たちの心をガチッと掴むことに成功するんです。

エンジェルがまた遅れて来た時、「数学の問題を君に解いてもらおう。簡単な問題だよ。 $-2+2$ は？」「バカにすんな！足し算か！俺は高校生だ！首の骨、折ったろか。」「まあそう言うなよ。 $-2+2$ はいくら？分からんのか？」「それぐらい分かるわ。ゼロだ！」

「その通り。ゼロだ。実はゼロという概念は、ギリシア人もローマ人も知らなかった。“無”という概念・数学上のゼロという概念を、人類史上初めて気付いて、高等数学を最も駆使していたのは君たちの祖先マヤ人だ。」メキシコ人はマヤ文明のマヤ人と、ヒスパニックのスペイン人との混血ですよ。君たちの体の中には、人類史上最も高等数学を発達させた数学者たちの血が流れているんだ。君たちの祖先は天才的な人たちだ。そして、自分たちが考え出した数学の様々な知見を、子孫が受け継いでほしいと思っていたに違いない。」

そのとき、プイっとしていたのが段々前向いて、1人の生徒が目をキラキラさせながら「このおっさん、何でも知ってるわ！」それがきっかけとなって変わるんです。これ、実話じゃなかったら「そんな上手いこと行くか」ってなるんですが実話。

今の授業のままだと微分積分まで行かないので、夏期講習を自発的にやって、最終的に18人全員が認定試験に合格しました。ところが、合格した後で教育委員会から電話があって、全員取り消し。試験で間違った問題が全員同じで、カンニングを疑われたんです。どうなる?!ビデオを見てください。

このセリフは本当に言ったことばかりです。「自分たちヒスパニックは、どうせ数学なんか分からへん。落ちこぼれで、勉強やっても付いて行くことは出来ない。高等数学なんて、なんぼ頑張っても理解出来るはずがない。」

そう思っている生徒たちに、「君たちのルーツは誇るべきルーツで、あのマヤ文明を紡ぎ出したマヤ人なんだ。マヤ人が造ったインカ帝国の遺跡の建築技術は、今の技術でも分からないんだぞ！君たちはつまらない者の子孫じゃないんだ！」

そうして、自分たちのルーツに誇りを持たせてもらったんですね。大丈夫だと。親を敬うことがすごく大事だというのは、ここに繋がって来るかもしれませんが。〇〇人ということだけでなく、全ての人のルーツはどこまでさかのぼれるかというアダムとエバです。アダムとエバは誰によって造られましたか？創造主なる神によってです。

つまり、私たちのルーツは神です。全知全能の神です。全知全能の神がご自分のかたちに似せて、ちょうど神が人格を持っているように、人格を持つ被造物として人間を造ってくださったのです。神の姿・神のかたちに似せて私たちは造られた。そして神は、私たちを愛して造ったこの方は、愛の対象である私たちに無制限の祝福と計画を持っておられたんです。

新年ぜひ覚えていただきたいことは、神はあなたを愛しておられるということです。神様はあなたを大切に思っておられ、あなたに対して計画がちゃんとある。神様は良い方です。良い方からは、その計画も良いことしか出て来ないんですね。

しかし神が良い方ならば、世界を見渡したとき、なぜ良くないことがこんなに横行してるんですか？神が悪いんじゃない。神様の良い祝福の計画を、私たちが受け取ることが出来ないでいるからです。受け損ねている原因が罪です。神様は祝福を準備しているけど、私たちは神と断絶状態にあって、神に対する反逆者なので、その祝福を受け損なっているのだと言うんですね。

この罪を全部取り除くために、イエス・キリストがこの世界に来てくださった。だから言われたのです。「**あなたがたは心を騒がせてはなりません。**」

わたしが十字架に掛かるのを見たら、わたしを愛しているあなた方は当然心騒ぐでしょう。しかし、イエス・キリストという1度も罪を犯したことがない方・絶対に神から捨てられるはずのない方が、あの十字架の上で神からも捨てられる。その姿を見上げることによって、その身代わりによって、絶対に赦されるはずのないこの私も赦しを受けることが出来る。絶対に神から捨てられるはずのない方が捨てられることによって、絶対に神に受け入れられるはずのない私が完全に受け入れられるという根拠となる。あなた方は十字架を見て心騒がす必要はない。

この十字架こそは、人の罪がイエス・キリストの犠牲によって完璧に償われたという証しなのです。なので、**心を騒がせてはなりません。**キリストが私たちの身代わりとなって死んでくださったからです。

2. キリストは償いを終えた後、3日目によみがえって父の家（天国）に行くから。  
**ヨハネ 14:2 わたしの父の家（天国）には住む所がたくさんあります。そうでなかったら、あなたがたのために場所を用意しに行く、と言ったでしょうか。**

なぜ心騒がせなくてよいのか？キリストは十字架に掛かって、死んで滅びるために進んで行くのではなく、滅亡に向かって行ったのではなく、償い終えた後3日目によみがえって父の家/天国に行くのだ。

これはたとえになりますが、3階建ての家に住んでいるとして、最近雨漏りがして屋根が少し破れている。

業者に頼むのを節約して自分で何とかしようと、素人なのに3階まで届く梯子を掛けて、怖いけど一生懸命上って、上り切った所が隣の屋根だったら…むなしと思いませんか？掛け間違えた…。

自分の所に行くには、もう1度下りて、また掛け直さないとダメですよ。

でも、屋根の修理ぐらいなら面倒臭いことだけど、やり直しがきくので致命的ではないと思います。辿り着いたとき、来てはならない場所であることが分かったなら、行くべき所にもう1度やり直せばいいんです。

だけど死後の世界では、やり直しは通用しません。このやり方・この考え・この哲学・この道を行けば、死んだ後も必ず良い世界に行けるんだ、と信じて死んでみた結果、想像していたのとは違う世界。来てはならない世界に辿り着いていた、ということがその時に分かって、やり直しはきかない。ここは天国に至る道ではなかった。もう1度やり直して生き直して、というわけにはいかないのです。

キリストは言われました。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれも父のみもとに行くことは出来ません。」(ヨハネ 14:6)

罪人であるにも拘らず、その罪を全て赦され、創造主なる神様から全面的に受け入れていただける道は、人間が下から上に向かって掛ける梯子のような道ではなく、天から下に下りて来た道だけです。人が努力や修行や頑張りを積み重ねて到達して行く道ではないのです。

誰よりも高いところにおられた方が誰よりも低いところに生まれてくださり、誰よりも聖いお方が全人類の全ての罪を負ってくださり、誰よりも強いお方が赤ちゃんという誰よりも弱い姿として生まれ、十字架処刑の磔（はりつけ）で、無抵抗な処刑される人のように死んで行かれる。

誰よりも賢い全知全能の方が誰よりも愚かに見えるような、バカな生き方にしか見えないような、愛に狂って自分の命を捨ててしまう愚かしい生き方のようにしか見えない。

このイエス・キリストこそは本物の救い主です。この救い主は十字架に掛かって死んでくださっただけでなく、3日目によみがえって父のみもとに帰られました。「父の家に行くからです。」なので、心配することはない。心騒がせる必要はない。

東海道新幹線は基本的に16両編成ですね。先頭車両の後ろに15両が連結されていて、先頭車両が1番のプラットホームに入ったら、2両目以下16両全部1番に入ります。先頭車両が20番のプラットホームに入ったら全車両が20番に入る。連結されているので先頭車両が行った所に入って行く。

クリスチャンは信仰によってイエス・キリストと繋がっている人たちです。

キリストが行った所に、キリストに繋がれている人も行く。キリストの身の上で起こったことは、キリストと繋がっている人にも起こる。「わたしは滅びに行くのではなく、父の家に行く」ということは、クリスチャンは死んでも、イエスが行った所に、イエスにあって行くことになる。

だから、心騒がせる必要はない。

### 3. 携挙のゆえに。

ヨハネ 14:3 わたしが(天に)行って、あなたがたに場所を用意したら、また来て、あなたがたをわたしのもとに迎えます。わたしがいるところに、あなたがたもいるようにするためです。

キリストが天に行くのは一時的なことで、天で私たちのために住まいの準備が出来たら、また来る。

また来て、というのは空中再臨です。また来る。クリスチャンたちを空中まで迎えに来られるんですね。これはいつ起こるか分かりませんが、父の家に住まいを備えたイエスはまた来て、迎えに来てくださる。これを携拳と言います。携拳のゆえに、この世界がどんなに酷く乱れて行ったとしても、私たちはガツカリする必要はないんです。

マーチン・ルーサー・キング（1929-1968）、黒人の公民権運動をやった人で、暗殺されて40代で亡くなりましたが、BLMと全然違う。何が違うかというとな非暴力。絶対に暴力を使わない。

彼は色んな所で迫害されたり、脅迫・妨害されたりするのですが、亡くなる直前にこう言いました。「私たちはこの地上に生きているのだから、良いことしか起こらないというのはあり得ない。ここはまだ天国じゃないから。だから、有限の失望を受け入れなければならないが、無限の希望があることを忘れてはならない。最終的にクリスチャンに約束されているのはどんな世界なんだろう。無限の希望だと思わないか？」

携拳です。キリストがまた来て。迎えに来てくださるのです。

去年の12月に家内と映画を見に行きました。ある年齢を超えてから映画に行きやすくなったのです。年齢割引があって行って来たんですが、それは…ユダヤ人の映画でした。家内はイスラエル・ユダヤ人が大好きで、というよりも、もう病氣やね。

もうね、ものすごいマニアックな映画。どれくらいマニアックかという、私たち以外にお客さん4人。一日の上映回数1回。1回で合計6人。しかも6人が6人共、年齢割引で入ったとしか思えないような。非常にマニアックな映画で、恐らくビデオにもならないんじゃないかと。

『ヒトラーに盗られたうさぎ』。ドイツの世界的絵本作家 ジュディス・カー（1923-2019）の自伝を映画化したものです。彼女が描く絵本・描く絵本がベストセラーになる、と言われているそうです。

映画ではアンナという名前で、賢いお兄ちゃんがいて。アンナが8歳で、お兄ちゃんが12歳くらい。お母さんはオペラ歌手。クラシックで高音が出て非常に美しい。お父さんは劇作家で批評家。演劇も書くけど演劇の批評もし、それに政治批評もやる。一家はドイツのベルリンに住んでいます。とてもいい生活をしているけれど1つ問題がありました。ユダヤ人なんです。

どんどん国の雰囲気がおかしくなって来て、政治批評で、お父さんがヒトラーを舌鋒鋭く激烈に批判するんですね。それがラジオ放送でブワーツと流れる。今ならYouTubeでしょうね。

「ヒトラーのやっていることは間違っている！」ヒトラーを公然と批判する批評家ということで、ずいぶん有名になってしまうのですが、これは命取りです。

10日後にドイツの総選挙がある。世論調査ではナチス党が第1党になるのは間違いない。

そのとき、ドイツ警察の中にいい人がいて、内部情報をこっそり教えてくれました。

「もしナチス党が第1党になったら、最初にするのは国中のユダヤ人からパスポートを取り上げることだ。あと10日しかない。今のうちに国を捨てて逃げるんだ。」

お父さんはその忠告に従って、一家をあげてスイスに亡命します。なぜスイスか？理由が2つあって、1つは永世中立国。だから、ドイツと同盟関係を結ばない。

もう1つはドイツ語が通じる。スイスはドイツ語圏・フランス語圏・イタリア語圏の3つがあって、ドイツ語圏に行けば、一から外国語を勉強し直す必要がない。

ちょっと変わったドイツ語だったそうですが、そこなら子供たちも転校先で順応できるだろう。

スイスの田舎でコテージを借り切って生活するけれど全く仕事がない。

スイスも演劇がすごく盛んで、特にドイツでヒット作を何本も出した劇作家なら、本当は引く手あまたのはず。しかし永世中立国というのは、どこの国とも同盟を結ばないしケンカをしないということで、言い換えると、どこの国とも仲良くしよう。だから、ナチス党が第1党になるドイツの癩に障るようなことを、出来るだけしないようにしよう。それで、お父さんは干された。

スイスにいる限り貯金を食いつぶして行くばかりで、このままだとコテージに住むことが出来ない。収入がない。ここは私たちがいる所ではない。パリに亡命しよう。

しかし、パッと行くわけにはいかないので、フランスで生活する準備のために、幼い兄妹を置いて両親が一足先にフランスに行くんです。住む所や仕事など色んなことを整えて、子供が来ても大丈夫なように準備万端整えたら、また迎えに来るからということ。

大陸横断鉄道の駅まで馬車で行かなければならないのですが、お別れする時、子供たちがもう悲痛な表情で、「また迎えに来てね！絶対に迎えに来てね！僕たちだけ残しておかないでね！」

その時両親は言いました。「迎えるために一旦行くんだよ。君たちと永久のお別れをするために行くんじゃない。絶対安全圏を準備するために一時的に君たちと離れるんだ。」

子供たちが馬車を追いかけて行くんです。「迎えに来てねーっ！」と言いながら。

そのシーンを見ながら、私はキリストと弟子たちの、この最後の晩餐のシーンが重なったんです。

「あなたがたは心を騒がせてはなりません。」

わたしはあなた方を置いて行くが、心騒がす必要はない。わたしが行くのは永久に離ればなれになるのではない。ここはあなた方が永久にいるような場所じゃない。この世界はあなた方が住めるような場所ではない。

わたしが(天に)行って、あなたがたに場所を用意したら、また来て、あなたがたをわたしのもとに迎えます。わたしがいるところに、あなたがたもいるようにするためです。

あなた方に相応しいのは父の家です。父の家にあなた方の家を準備するために行きます。

そして、準備が出来たら迎えに行きます。この迎えに来ることを携挙と言います。

携挙があると、その瞬間、クリスチャンたちは一瞬にして、天に引き上げられていなくなります。

だから、携挙の後でこの福音集會に来られても、コロナとは関係なく、クリスチャンはいません。

なので、YouTube をご覧の皆様。今のうちに是非この動画を保存しておいてください。

今回、トランプ大統領/アメリカの現職大統領が、フェイスブックやツイッターのアカウント永久取り消しですよ。1月20日にバイデン大統領の就任式がありますが、「私は就任式に出席しない」というツイッター、取り消しです。発表出来なかった。

「なんで？」と聞かれた時、責任者が「トランプ大統領が1月20日の就任式にいないということは、どんなに大暴れしても彼はいないから、彼の身の安全は確保されている。だから襲いかかれ！というメッセージにも聞こえる。」聞こえへんわ！そんなん。

でも、SNSの責任者が「こうも読めるよな」と言ったら、その一存でもうアップ出来なくなる。

これが自由の国アメリカであるんですね。

YouTube にアップしているのは、私たちが天に行った後で、残った方々がそれを聞いて、信じていただくためなんですが、ホンマに消したろ思ったら、簡単に消せますからね。

この集会でも 220 本くらい YouTube 動画アップしてるけど、そんなんピュッ！ピュッ！

でも保存した人は、自分のデバイスに保存されるので何回でも見れます。そして、保存した人が何回でもアップしてくれたらいいですよ。これをデジタルタトゥーと言いまして、一旦ネット空間上に出されたものは、どんなに消しても消えない。刺青/タトゥーのようなものだというのでデジタルタトゥー。ですから、保存していただくのがいいのですが、もっといいのは今信じていただくことです。

ある人が言いました。木を植えるのに 1 番良いのはいつだろう？30 年前です。もし 30 年前に植えていたら、今日は 30 年後なので見事な大木に育っているでしょう。その木には利用価値があります。では、その次に良いタイミングはいつだろう？今ですよ。今植えたら、自分は刈り取れないかもしれないけど、次の世代が刈り取ることが出来る。少なくとも。

“現在” は英語で Present/プレゼント。これは“現在” というのと同時に“贈り物” です。未来はどうなるか分からないし、過去はどんなに後悔しても今更変えることは出来ない。でも今だけは、私の決心次第でどちらの側も選ぶことが出来るんですね。イエスを自分の救い主として選ぶことも出来るし、「イエスは要らない。私は自分のやり方でやる」という道を選ぶことも出来ます。しかし、父のみもとに繋がっている道はイエス・キリストだけです。

ヨハネ 14:6 イエスは彼に言われた。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれも父のみもとに行くことは出来ません。」

言い換えると、「わたしを通すなら、どんな人であったとしても、父のみもとに行くことが出来るのです。」

どんなに大きな過ちをやった人でも・どんな罪人でも・どんな失敗者であっても、イエスを通るなら、父のみもとに行くことが出来ます。なぜなら、この方は父から出た道だからです。

道は Way/ウェイ。Way には“方法” という意味もありますね。

父に至る方法、それはイエス・キリストだけです。イエス・キリストはあなたを愛している。

2021 年、混迷する時代の中で、この方は皆さんと一緒に歩みたいと願っておられるんです。

先程の『ヒトラーに盗られたうさぎ』。スイスに亡命する時、お母さんに言われます。

「持ち物は出来るだけ少なくしなさい。オモチャは 1 個だけ！」

アンナは最後の最後、クマのぬいぐるみとうさぎのぬいぐるみ、もう究極の選択。クマを選ぶんですね。

それで、後に『ヒトラーに盗られたうさぎ』という自伝を書くんですね。

さて、パリに行くのですが、パリもナチスに占領されます。最後どうなるかという、ドーバー海峡渡ってイギリスに行くんです。小学校の時にドイツ語・フランス語・英語。そらあ、言葉出来るようになるやろなど。私、大阪弁のネイティブですよ。大阪にしか住んでへんからね。色んな所に行ったら出来るやろなどと思うんですけど。

今までのナチス迫害のユダヤ人映画の中で、この映画の 1 つの特徴は“明るい”。

ハラハラドキドキするけど、基本的には明るい。

全部終わってエンドロールで「この子は世界的な絵本作家となり、お兄ちゃんの〇〇君はイギリスで最初の最高裁判事になりました。」ハレルヤ！みたいな感じ。

危ない危ない感じなのに、何となくワクワクするような、楽しいような明るいタッチ。

それは、両親に守られて逃避行しているからです。

旅は誰と一緒に歩むかによって、不愉快なものにもなるし、楽しい思い出にもなりますよね。

イエス・キリストは人生という旅の中であなたをエスコートして、主と共に歩む人生を行こうじゃないかと招いてくださっています。

是非イエス・キリストを救い主として信じてください。そして、永遠の命を頂いてください。

心からお勧めしたいと思います。



\* 動画は YouTube で「[HCA 東住吉キリスト集会](#)」

\* ラジオ番組「[聖書と福音](#)」(約 15 分) も是非どうぞ。YouTube もあります。

\* YouTube「[ごうちゃんねる](#)」も是非見てください。

動画筆記 : Rumi